

甲南緑の少年団が 樹木保護作業にひと役

～鈴鹿国定公園40周年～

昭和43年7月22日に滋賀・三重両県にわたる鈴鹿山脈一帯の29,000ヘクタールが国定公園指定され、40年を迎えました。これを記念して、御在所岳山上公園で7月22日、記念の行事が行われました。式典には、滋賀県から中嶋市長と田口副知事が、また三重県から野呂知事と菰野町長らが出席、40周年をともに喜びました。



樹木保護作業に参加した緑の少年団員

また、これからも両県にまたがる郷土の森を守ろうと甲賀市から忍者の里甲南緑の少年団が、また菰野町からも、みどりの少年隊が参加しました。少年たちは、「自然のままに美しく」宣言で同公園の自然の魅力を発信したほか、損傷が著しい樹木に食害保護シートを取り付ける作業にも参加しました。

暑さを吹き飛ばそう

～兆生園・エーデル土山で納涼祭～



参加者が一つの輪になった納涼踊り(兆生園)

梅雨明け間もない7月19日、水口の指定介護老人福祉施設「兆生園」で、納涼祭が開催されました。施設を利用されている方に夏祭りを楽しんでもらおうと毎年開催されており、利用者の家族や近隣の方が参加しました。

会場では、焼きそばや金魚すくい、そうめんなどの模擬店が開かれたほか、職員によるよさこいソーランの踊りが披露され、お祭りムードを盛り上げました。また、納涼踊りには、利用者の皆さんも車イスで参加、踊りの輪に笑顔が広がりました。

納涼祭には中嶋市長も出席、踊りにも参加し、皆さんとともに楽しいひとときを過ごしました。また、エーデル土山では、8月3日に第12回となる夏まつりが行われ、新人職員による歌やハンドベル、和太鼓などが会場を盛り上げました。

かんぴょうを長く手むき

～甲南ふれあいの館体験教室～

甲南ふれあいの館で7月24日、なつかしの体験教室が行われ、参加した15名がかんぴょうの手むきを体験しました。

この日は、地元でとれた30センチほどもあるユウガオの実15個を使用。参加者は、同館で活動する民具友の会の会員の手ほどきで、輪切りにされたものを、専用のカンナとよばれる道具を使って丁寧に手むきました。親子で参加した保護者の方は、「子どもたちが、普段食べているかんぴょうの元の姿を見たのは初めて。スーパーに行って売り物になっ

ているところも見たいです」と話していました。

作業後には、かんぴょうのワタを使った煮物がふるまわれ、皆さんは旬の味を楽しみました。この日むいたかんぴょうは、2日間さおで天日に干され、26日には「かんぴょうタグリ」が行われました。



かんぴょうむきに挑戦する親子

川に親しみ水環境を学ぶ

～野洲川自然教室～



親子で楽しんだニジマスつかみ

土山町徳原の鹿深大橋たもとで7月21日、野洲川自然教室が開催され、市内の園児や小学生ら親子約250名が参加しました。

親子で川に親しみ、水環境を良くする意識を高めようと、甲賀市エコネットや野洲川を愛する会などが主催しているもので、今年で9回目となります。野洲川を愛する会の市井幸夫会長が、パネルを使って川にすむ生き物について説明した後、放流されたニジマス600匹のつかみどりが行われました。

参加した皆さんは、手や網を使って、すばしこく泳ぐニジマスを追いかけていました。親子で水に親しみ、夏の思い出づくりができたようです。

鈴なりの宮ベリー味わう

～甲南第三小ブルーベリー摘み～



「甘くておいしい」とブルーベリーをほおぼる児童たち

2年前から栽培されている上野川営農組合の「宮ベリー」が、2回目の収穫期を迎えました。7月17日には、甲南第三小学校の全校児童50名がブルーベリー摘みに招待されました。

私たちの環境を学習

～伴谷小学校環境学習～

伴谷小学校で、7月14日、17日、環境に関する出前授業が行われました。

この授業は、日本写真印刷(株)の社員の方が直接教壇に立ち行ったもので、5年生児童が、印刷の仕組みや印刷技術と環境との関係について学びました。

児童は、普段見ることの

ない、本ができる途中の印刷物を見たり、実際に製本を体験したりするなかで、私たちの生活の中にある紙や色が環境と深い関わりがあることを知りました。そして、環境の主役は私たち一人ひとりであるということも学びました。



大きな紙を本のサイズにたたむ製本作業

営農組合代表の増田則治さんは、「今年

は天候に恵まれ、大粒で甘くておいしいブルーベリーができました」と笑顔で話していました。

8月31日までの土・日のみ営業で、開園時間は朝7時から12時までです。



中嶋市長も今年の宮ベリーを試食